

# 渥美半島先端近くでみつかった 絶滅危惧種タガメ（半翅目：コオイムシ科）について

長谷川道明<sup>1)</sup>・菊地波輝<sup>1)</sup>・渡邊 陸<sup>2)</sup>

A record of the endangered giant water bug  
*Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy, 1864) (Hemiptera, Belostomatidae)  
from near the tip of the Atsumi Peninsula, Tahara City, Aichi Prefecture

Michiaki Hasegawa<sup>1)</sup>, Namiki Kikuchi<sup>1)</sup> and Riku Watanabe<sup>2)</sup>

## はじめに

タガメ *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy, 1864) は、環境省のレッドリスト 2020 において絶滅危惧 II 類 (VU) (環境省, 2020), 「種の保存法」において「特定第二種国内希少野生動物種」に指定され、絶滅危惧種としてよく知られている昆虫である。愛知県においても絶滅危惧 IB 類 (EN) にランクされ県内での絶滅が危惧されている (澤田, 2020)。

本種は、島嶼を含む愛知県内各地から記録が知られており、かつては県内に広く分布していたが、1980 年代には確認が難しくなっていた (浅岡・家城, 1990; 大塚, 2003; 2008; 澤田, 2020; 高柳・藤原, 1985; 板倉, 1979)。それでも 2000 年頃までは瀬戸市から豊田市、新城市にかけて複数の生息地が確認されていた (大塚, 2003; 2008)。しかしながら、筆者らの調査や熱心に地元のタガメを探索・観察している研究者、同好者から集めた情報では、2000 年代に生息情報があった場所も、次々に生息環境が消滅したり、確認されなくなっていたりして、現在も生息している場所は三河山間部の数か所のみとなっている可能性が高い。

そのような状況の中で、2024 年の 9 月に渥美半島の

先端近くで、タガメの成虫が確認されたので、報告する。

## 標本

1 ex. 愛知県田原市小中山町, 2024 年 9 月 20 日, 渡邊 陸 採集 (収蔵: 豊橋市自然史博物館昆虫資料 TMNH-I-31587) (第 1 図)。

## 発見状況

愛知県栽培漁業センター (愛知県田原市小中山町一膳松 1-3) 内の魚類種苗生産に用いるナンノクロロプシス *Nannochloropsis oculata* (Droop, 1955) Hibberd, 1981 培養用の水槽の中から死体を発見した。ナンノクロロプシスは培養終了後 4 カ月程が経過しており、発見当時の水槽内の塩分濃度は 0.7%, 水温は 26.5°C であった。タガメは、死後数日経過していたとみられ、すでに腐敗が進んでおり、体にはユスリカ Chironomidae sp. の終齢幼虫が付着していたが、体の部位はほぼ揃っており、水槽内に飛来した後に死亡したものと推測された。また、同じ水槽内には他にハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus* (Fabricius, 1781), コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (Germar, 1827), ガムシ *Hydrophilus*

1) 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

2) 愛知県農業水産局水産課. Fisheries Administration Division, Bureau of Agriculture and Fisheries, Aichi Prefectural Government, Nagoya, Aichi 460-8501, Japan.

Corresponding author: Michiaki Hasegawa. E-mail: hasegawa-michiaki@city.toyohashi.lg.jp

原稿受付 2024 年 11 月 29 日. Manuscript received Nov. 29, 2024.

原稿受理 2024 年 12 月 10 日. Manuscript accepted Dec. 10, 2024.

キーワード: 分布記録, 洋上分散, 水生半翅類.

Key words: Distributional record, Overseas dispersal, Aquatic Hemiptera.



第1図. 田原市小中山町産タガメ (TMNH-I-31587). A, 発見時, B, 乾燥後の標本. スケールバー: 1.0 cm.

*acuminatus* Motschulsky, 1854, ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792), ミズムシ類 *Corixidae* sp., トンボ科のヤゴ *Libellulidae* sp., ユスリカの幼虫 *Chironomidae* sp. が生息していた.

### 考 察

今回、死体が拾得された愛知県栽培漁業センターは、渥美半島の先端部、西ノ浜に面して立地している。周辺の地形は平坦で畑や松林となっており、本種が生息できるような水辺環境は存在しない。

渥美半島でのタガメの生息情報は、旧渥美町内での記録 (板倉, 1979) が1例あるが、近年の情報はない。また板倉 (1979) の記録は種名が列記されているだけのもので、詳細なデータや証拠づける写真等はなく、信憑性にやや疑問がある。しかしながら、渥美半島には、古くから溜池が多く作られ、各地に湧水湿地が点在するなど多様な水辺環境がある。そこにはヤマトサンショウウオ *Hynobius vandenburghi* Dunn, 1923, ニホンアカガエル *Rana japonica* Boulenger, 1879, ナゴヤダルマガエル *Pelophylax porosus brevipodus* (Ito, 1941), ニホンイシガメ *Mauremys japonica* (Temminck et Schlegel, 1838) といった絶滅危惧種が現在も生息しており、タガメの生息の可能性を完全に否定することはできない。一方で、タガメはよく飛翔し、海上で捕獲された例もある (谷ほか, 2023)。採集地点の北の海上約6

km 沖合に浮かぶ佐久島では、1例のみだが、1982年に灯火に飛来した個体が採集されている (高柳・藤原, 1985)。対岸の三重県では、近年では生息地点、個体数が激減しているとされ、絶滅危惧II類 (VU) にランクされているが、タガメの生息地が多く知られており、伊良湖岬から約20 kmほどの距離にある志摩半島にも記録がある (鈴木・大川, 2015)。また、2024年9月1日には、非常に遅いスピードで西日本を迷走した台風10号が東海道沖に達し、東三河地方に大きな被害をもたらしていることから、この台風の影響で運ばれた可能性もある。

以上のことから、今回得られたタガメの由来については、以下の4つの可能性が考えられる。

- ① 渥美半島にタガメの生息地がある可能性。
- ② 佐久島に現在も生息地が残っており、そこからの飛来の可能性。
- ③ 志摩半島の生息地からの飛来の可能性。
- ④ 飼育個体の逃亡の可能性。

今回の発見は渥美半島での新産地の可能性や、他地域からの飛来による愛知県内の個体群の回復をも期待させるものであり、渥美半島や佐久島などの伊勢湾・三河湾の島嶼、志摩半島での詳細な調査が望まれる。

### 引用文献

浅岡孝知・家城 司, 1990. 愛知県の異翅目. 愛知県の昆虫(上),

- 愛知県, 123-162.
- 板倉範枝, 1979. 渥美町において記録したクモ類及び昆虫類について. 虫譜, **17** (2) : 34-37.
- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020 別添資料 3, 131 p.  
<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> (2024 年 11 月 13 日閲覧)
- 大塚 篤, 2003. タガメの分布調査と飼育 (I). 佳香蝶, **55** (215) : 61-64.
- 大塚 篤, 2008. タガメの分布調査と飼育 (II). 佳香蝶, **60** (234) : 127-131.
- 澤田宗一郎, 2020. タガメ. 愛知県環境調査センター (編), 愛知県の絶滅のおそれのある野生動物, レッドデータブック あいち 2020—動物編一, 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, 296.
- 鈴木 賢・大川親雄, 2015. タガメ. 三重県農林水産部みどり共生推進課 (編), 三重県レッドデータブック 2015 三重県の絶滅のおそれのある野生生物, 三重県, 津, 187.
- 高柳久和・藤原優年, 1985. 佐久島で採集された特記すべき昆虫. 虫譜, **23** (2) : 5-6.
- 谷 聖太郎・長尾元椰・野崎このは・河合幸一郎, 2023. 広島県呉市の仁方湾で採集された絶滅危惧種タガメ *Kirkaldyia deynolli* (半翅目:コオイムシ科) の記録, 形態及び分子系統. 広島大学総合博物館研究報告, **15** : 35-40.